

大阪市では、景観計画における「眺望景観」及び「夜間景観」の形成に係る景観形成方針・景観形成基準等の充実を行っています。これに伴い、景観形成方針・景観形成基準の解説等、景観計画を補完する位置づけとして取りまとめた「景観読本」の更新を行います。今回行う更新のポイントは次のとおりです。

ポイント①：眺望景観形成に向けた景観形成基準の解説の充実

大阪らしい眺望景観の典型的な3つの眺め「見通す眺め」「見渡す眺め」「ランドマークへの眺め」に沿った眺望景観の形成が重要となるため、視点場・計画地・視対象の関係などを読み解き、基準の解釈のために必要な景観形成（設計）の考え方や、具体的な工夫の例といった解説について、大阪を代表する3つのエリア（大阪城公園周辺、中之島等、ベイエリア）ごとに充実しています。

景観計画の 景観形成方針	眺望景観の特徴・ 主な景観形成の考え方	眺望景観形成に向けた景観形成基準の解説充実
大阪城公園周辺	大阪城天守閣の眺めに配慮し、形態意匠の工夫や色彩の配慮などにより、大阪の象徴的な眺望景観を創出する。 ・大阪城天守閣を視対象とした「ランドマークへの眺め」が形成されています。 ・計画地が大阪城天守閣の前景にある場合と、背景にある場合で、眺望景観に与える影響は異なります。 ○配置、高さ、形態、意匠を大阪城及び周辺の要素との関係性から検討することが大切です。 ○大阪城天守閣の前景にある場合は細部の意匠の工夫による圧迫感の抑制が大切です。 ○背景にある場合は建築物全体の形態の工夫による配慮が大切です。	計画敷地と視対象となる大阪城天守閣の関係に着目し、より大阪城天守閣を際立たせるための手法等について、解説を充実しています。 前景にける配慮イメージ ・壁面意匠の詳細なデザインの工夫による圧迫感の抑制 ・背景に空が見える場合、ガラス材を用いるなどシンプルな意匠 縦方向の分節（スリット等）による圧迫感の抑制 基壇部と中高層部の分節化による建物全体の視覚的なボリューム感の抑制 分節による意匠の工夫例 ガラス材を用いたシンプルな意匠の例
中之島等	高所からの俯瞰、沿川を見通す、対岸を広範囲に見渡す、島らしい印象的な眺めに配慮し、形態意匠の工夫や色彩の配慮などにより、水辺の印象的な顔づくりを行う。 ・河川沿いに立ち並ぶ建築物群により奥行きが強調された「見通す眺め」を橋梁等から望むことができます。 ・橋上から視対象が近く、近景も対象となります。 ○それぞれの建築物が水辺側を意識した顔づくりを行うとともに、見通しの視線誘導効果を高めるデザインにすることが大切です。 ○水辺に近い、建築物低層部においては、人々のアクティビティが表出するための工夫をすることが大切です。	水辺側の顔づくりに必要な、開口部の作り方や、河川側への顔づくりに関するデザインアイデアについて解説を充実しています。 河川に向けてつくりこまれたまちなみのイメージ 歴史的な橋梁と調和したデザイン 河川側に顔を向けた建築物群 建物低層部の配慮イメージ 線材等を用いて視線効果を高める 壁面位置を揃える 河川に向けた大きな開口部 テラス席の設置

ポイント③：主な視点場の景観特性を補足する写真・解説の充実

- ・景観読本には、景観計画の変更に先立ち、平成31年3月、「大阪城公園周辺」「中之島等」「ベイエリア」の主な視点場を明示しています。
- ・今回、良好な眺望景観・夜間景観形成に向け現状の景観を読み解く際の参考となるよう、これらの主な視点場について、現在形成されている魅力的な眺望景観・夜間景観の写真と景観特性に関する解説を充実しています。

ポイント④：景観コラムの充実

- ・景観計画の変更に際して加わった、「眺望景観」「夜間景観」といった景観を考えるうえで必要な新たな視点を踏まえ、景観形成の考え方や具体的な景観形成手法に関するコラムを充実しています。
- ・なお、景観コラムについては、大阪市都市景観委員会の委員である専門家にご協力をいただいています。

ポイント②：夜間景観ガイドラインの新設

大阪を代表とするエリアを対象にした、主要な視点場からの夜間景観誘導をはじめ、大阪らしいあかりの魅力を引き出し、市域全体の夜間景観の形成を図ることを目的に、建築物や広告物等の照明を検討するにあたっての参考となる配慮事項やアイデア等を掲載する「夜間景観ガイドライン」を新たに設けます。

夜間景観形成の手法の解説

<夜間景観形成の4つの手順>

設計者や事業者の方だけでなく市民の方にも、大阪らしい夜間景観づくりに取り組めるように、計画手順等を解説します。

ステップ1

- ・昼間と夜間の地域特性把握

ステップ2

- ・夜間景観形成のコンセプトの設定

ステップ3

- ・照明計画、設計

ステップ4

- ・設置後のメンテナンス

<魅力的な「4つのあかり」を生み出す照明手法>

それぞれのあかりにおける効果的な照明手法を検討するためのヒントを掲載します。

①俯瞰するあかり

- 水際のライトアップ



②水辺のあかり

- 水辺の建物や植栽等の工夫



③界隈のあかり

- 建物やサイン、植栽等の演出



④個のあかり

- ランドマークの演出



<「3つのエリア」の特性を生かす照明手法等>

～ エリアの魅力を高める照明手法 ～

①大阪城公園周辺

- 大阪城の象徴的なあかり

来訪者を迎える雰囲気づくりなど、ランドマークを活かした夜間景観の創出



色温度の対比によって大阪城を際立たせる工夫
©（公財）大阪観光局

②中之島等

- 水辺の魅力を高めるあかり

魅力的な水辺のあかりをつなげる演出～水辺の印象的な顔づくり～



③ベイエリア

- 港らしい水辺のあかり

港らしい夜景を創り出すあかりの演出



ポイント⑤：メディアファサード等に関する解説の新設

- ・魅力的な夜間景観の形成に向けたメディアファサード等の誘導に関する要綱の制定に伴い、「Ⅰ章建築物・工作物の景観形成」において、要綱の趣旨や手続きの手順等を新たに設けています。